

## ぐるんぱのようちえん

西内ミナミ 作

堀内誠一 絵

福音館書店 1966年 743円



ひとりぼっちのぞうのぐるんぱは、大きくなったので働きに出されました。ところが、ビスケットやさんでは1万円もする特大のビスケット、くつやさんでは人がすっぽり入るくつなど、ぐるんぱの作るものは大きすぎて、どのお店からも追い出されてしまいます。しょんぼりしたぐるんぱですが、子どもが12人いるおかあさんに子守を頼まれたとき、特大の品々が大活躍し、楽しい幼稚園になりました。

## くんちゃんのだいいょこう

ドロシー・マリノ 文・絵

石井桃子 訳

岩波書店 1986年 1000円



ふゆごもりの季節がきました。くまの子のくんちゃんは南へ渡る鳥たちを見て、自分も行ってみたくなりました。丘を登ったところでおかあさんにきょうならのキスをしてこなかったことを思い出してかけ戻ります。双眼鏡、釣り竿と次々に忘れ物が出てきて行ったり来たり。くんちゃんの子どものらしい言動と、それをあたたかく見守る両親の姿が描かれています。シリーズは「くんちゃんのはじめてのがっこう」など全7冊です(すべてペンギン社刊)。

## こすずめのぼうけん

ルース・エインズワース 作

ほりうちせいいち 絵

いしいももこ 訳

福音館書店 1977年 800円



はじめて飛び方を教わったこすずめは、お母さんの言いつけをきかずに遠くまで行ってしまいます。始めは飛ぶのがおもしろかったのですが、だんだん疲れてきてどこかで休みたくなりました。ところが、どの鳥の巣でも「仲間じゃない」と言って断られてしまいます。こすずめと他の鳥とのやりとりのくり返しが楽しめます。最後にお母さんに会うところで、子どもたちも一緒にほっと安心するでしょう。